

物部川清流保全推進協議会部会「濁水対策を進めるWG」要旨

日 時：平成23年2月8日 10:00～12:00

場 所：のいちふれあいセンター
香南市野市町西野 534-1

出席者：別紙のとおり

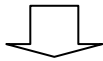
内容

1. 事務局（環境共生課）より、前回（1回目）の議事録要旨説明
2. 事務局（環境共生課）より、次の内容を説明した。
 - (1) 農業濁水調査を実施している①片地川河口付近、②高川原樋門付近、③せせらぎ水路、④後川樋門付近の4箇所について、H20～H22の濁度の計測結果と降水量の関連性を、資料をもとに説明。
 - (2) 4箇所に排水されていると想定されている圃場。
 - (3) 農業濁水データの収集（測定日）について平成23年度の実施案を説明。
 - (4) 「愛媛県広見川等農業排水対策協議会」が作成している広報用の看板の説明。

【各出席団体から出された意見は次のとおり】

- ・濁度と降水量の比較データでは、物部川流域では平成20年4月7日に降水量が多く、濁度も①片地川河口付近、②高川原樋門付近、③せせらぎ水路の3箇所で上昇している。④後川樋門付近では、3月24日に降水量が多く濁度も上昇している。このように、降水量の多さと濁度の上昇は、全てではないが関連性があるといえるのではないかと。
- ・データでは降水量の多さと濁度の上昇が関連している部分もあるが、雨が少なくても川は濁っていたと記憶している。濁水はアユの遡上時期にも影響がある。前回の議事録にもあったが、本流の水量に変化はないのかなど、昔と今で何が変わったのか、一つずつ検証していく必要がある。また、四万十川支流の広見川でも農業濁水対策を実施していると聞いたが、他の河川の事例を参考にしてみてもどうか。
- ・降水量との関連もあるが、本川の流量によって濁りは違ってくると思うが、少しでも田んぼから物部川へ落ちる濁りを無くすという方向で水をきれいにする取組みが必要だ。
- ・中央東農業振興センターでは、代掻きの作業時には浅い水で実施することや、田植え時には水の入れ方を少なくするなどを呼びかけている。
- ・以前と比べると、かんがいの時期が早期化し、取水時期も早くなっているのではないかと。
- ・代掻きの時期のピークは3月下旬から4月10日頃。
- ・田植えは土曜日、日曜日に行う場合が多いので、農業濁水データの測定は、引き続き毎週月曜日に実施するのがよい。
- ・アユの遡上の時期は2月10日頃に確認できていたが、最近では遡上の時期が遅れてきている。アユの遡上との関連でいえば、測定日を後ろへ長く設定してもいいが、あまり早い時期から測定することはないと思う。ある程度回数を増やして測定してはどうか。

- ・代掻きは5月には終わっているなので、測定を5月にする必要はないと思う。
- ・雨量と濁水の関連性を調べてみるためにも、農業濁水データの測定は回数を増やした方がよい。
- ・濁度の測定は1週間に1回ではデータの精度が薄い。4,5日で状況は変わる。
- ・物部川本川の濁度の調査も必要なため、調査地点を1ヶ所増やす。取水前の濁度と、田んぼから排出後の濁度を比較する。
- ・物部川漁業協同組合でも4箇所濁度の計測を実施している。
- ・国交省において、深淵、戸板島では1時間ごとに流量を測定しているので本川の流量の情報提供は可能。
- ・測定方法をマニュアル化して欲しい。



◆決定事項【農業濁水データの測定日について】

- ・物部川本川の濁度の調査が必要なため調査地点を1ヶ所増やす。
 <新規追加地点：山田堰記念公園北側水路>
- ・測定時期は、2月28日（月）から4月25日（月）までとし、5月は測定しない。また、3月24日（木）から4月21日（木）までの毎週木曜日も測定する。測定は各団体が分担して測定する。
- ・WGのメンバーにおいて、1度現地確認を行うこととし、次回のWG（4月開催予定）は現地を見てから会議を行う。
- ・広見川等の農業濁水対策（2/9 四万十川愛媛・高知連携協議会）を報告しながら、広報の方法、看板の作成などを次回WGで協議する。

（その他）

- ・後川へ入ってくる水の経路は、地元の人でも把握が困難。まず実態を調べてみないといけない。
- ・広見川の農業濁水対策の看板も参考にしたいが、取り組む農家に何かメリットがあればいいと思う。
- ・看板に「地域のエコ活動に協力しています」といった内容を記載したり、「肥料・土を無駄に流していない、物部川の清流保全に協力している」、という風に、心に響くような表現にした方がよい。
- ・強風が吹いたら田んぼから水が流れるということもあるので、1度みんなで現地を見る必要がある。
- ・アユの遡上の遅れも以前はなかった。以前と物部川の様子が変わってきたが、多くの人はこの状況を知らない。こういう課題を明確に伝えていきたい。
- ・アユだけの問題でもなく、濁った川の水を使用することは、農作物全体に関わってくる問題だ。
- ・農家の人も川の水の濁りは気にしていると思う。
- ・すぐには状況は変わらないが、この協議会が立ち上がったので、みんなで実態を見て考えていきたい。